19世紀以降の移民の流れ

19世紀後半から1920年頃にかけての時期は、世界的に人口の移動が行われた。その背景には、第二次産業革命による労働力の必要があった点があげられる。アメリカ合衆国は、北ヨーロッパ、南・東ヨーロッパ、アジアなどの各地から移民を受け入れた。一方、東南アジア方面には、中国人移住者である「華僑」が、イギリスの植民地となった太平洋やカリブ海の島々へは、インド人移住者「印僑」が移住した。当時の人口移動の結果が、今日の世界の諸地域（国家）の民族構成の基礎を形成することにつながっている。

地図情報の参考：『最新世界史図表』第一学習社、2013年